**2024年3月24日　『5次元ライフナビゲーター入門』　校正前原稿**

**JUJU JUNKO KOMIYA**

**5次元ライフのリアリティと4次元のリアリティの違い**

５次元世界が身体を持って時間の中を生きる私たちの現実に影響を与えているところであると言う理解に達するのではないかと思います。

簡単な実験をすれば、５次元と４次元がどんなに違うかわかると思うので、次のことをちょっとやってみてください。

秒針のついている時計が進んでいることを見て確認してください。

確かに、時間は過去から未来へと進んでいますね。

それでは、時計から目を離し、昨日会ったことを思い出してみてください。

すでに終わったことを、あなたは思い出しているので、あなたの意識は今ここから過去へとベクトルを向けたことになります。

それでは、明日の予定を思い浮かべてください。

何時にどこで、どんなことをしているか、想像してください。

あなたの友人が来月ハワイに行こうと誘って来ました。

来月、ハワイにいるあなたを想像することができませんか？

子供の頃に遊んでいたおもちゃを思い出してください。

大好きだったバービー人形や、小さな車のおもちゃなどが脳裏に浮かぶはずです。

記憶は、このように縦横無尽な時間軸を飛び越えるように移動し、それらの情報をかき集めて、更に未来にまだ起きていない事象を想像して、ワクワクしたり心配したりするようにできています。

そして、想像した事柄は、なぜか私たちの現実になって現れてくることがあります。

最悪なことを想像したとしても、現実はそれよりもマシなこともあるので、いつでも最悪な結果を想像しておけば、現実はそんなに悪いものではないと思えるから最悪を心配すると言う人もいるくらいです。

今、実験したことは、私たちが自然に脳内で行っていることなので、何も難しくないことですが、今を未来として過去の記憶をたどるのは簡単なのに、ここから先の未来が、『今、ここ』に向かってやってくる過程で起きることを想像するのが難しいと感じることはあるかもしれません。

未来が今ここに到達する過程を想像することは難しくても、未来の結果を予測することは多くの人が自然にやっていることです。

それを、私たちは「夢」と呼んだり「願望」と呼んだりします。

「夢が叶う」、「願望が実現化する」ためには、強く信じることが必要だとも言われます。

本当にそうでしょうか？

夢や願望には、行動すれば叶うものと、行動しても「運」がなければ叶わないと思われるもの、更には行動などせず、ただ思っているだけでも「運」があれば、奇跡的に叶ってしまうことなどがありますが、強く信じるかどうかは、実は現実化にあまり関係がありません。

意識が創る現実という言葉が一人歩きすると、「現実創造をするための意識が大切なのか」と思い込んでしまって、意識の世界で想像すればいい、イメ―ジさえすればいいのだと何も行動せず、イメージだけしていればよいと早とちりしてしまうこともあるかもしれません。

しかし、私たちが生きているこの４次元世界に影響を与えているのは、５次元だけではありません。

物質的な世界がなければ、まず、顕現することそのものができません。

そして、顕現した世界を動かすためには、文字やビジョンが書かれた『紙』が以外に強い影響を持っています。

契約書や、婚姻届け、免許証や、遺言書等のさまざまな証書がないために現実が作り出せないと言う経験をしたことのある人もいるのではないでしょうか？

よく、「こんな紙切れひとつで…」と表現することがありますが、２次元の力は、現実創造にはなくてはならないものなのです。

考えてみれば、お札も紙っ切れですし、小切手も紙っ切れですが、そこに書かれているものが効力を持っているということは誰もが知っていることではないでしょうか。

　さて、では５次元以上の次元は、「今、ここ」の４次元にどんな影響を及ぼしているのでしょうか？

本書では、私たちがもう一つの次元として「あの世」と呼んでいる世界のことを６次元と表しています。

５次元は意識の世界ですが、６次元も時間のベクトルがあらゆる方向に伸びている世界で、この次元から降下して転生したり、はたまた私たちが「今、ここ」と感じている世界の外宇宙にまで移行することができるような次元として捉えると、今まで不可解だったことや目に見えない世界の不思議が、するするっと溶けていきます。

　あの世も、こちらの世界と同じように「世界」として存在し、５次元を通じて４次元に生きている私たちに関与することも可能な次元だと理解するとどうでしょう？

たとえば、先祖に感謝することは、大なり小なり意識の世界である５次元に影響を与えると考えることが容易になると思います。

　６次元以上の高次の世界は７次元あたりが、人格のあるものとして感知する限界ではないかと思います。

７次元は６次元から転生するサイクルを必要としない「存在」の次元で、６次元の影響を受けずにダイレクトに私たちの五次元意識に関与することができるところです。

ここに存在する意識のことを俗に『アセンデッド・マスター」と呼びます。高次の世界から私たちに対して「より高い次元に迎えるように」指導してくれるようです。

　１対１ではなく、求めれば１対多数という形で指導してくれる、素晴らしい指導者たちです。例えば、モーツアルトを弾く人が、モーツアルトの指導を欲すれば、すべてのピアニストに対してモーツアルトは同時に関与することができるといったように１対多数に関与することができます。

　ただし、求めることが必要です。「今、ここ」に肉体と時間の双方を携えて「生きている」と感じている私たちには、自由意思があり、この自由意思を発揮することこそが、「今、ここ」の４次元世界に存在する意味でもあり意義でもあると言ってもよいかもしれません。

　つまり、私たちは、「今、ここ」の４次元に５次元以上の世界を具現化させることができる創造のメカニズムの一部であるということです。

　そして、その創造のメカニズムは何のためにあるかと言えば、自由意思を使っていいという「創造の秘密と秘訣」という公式のありのままを、視える化し、触れる化し、いつか壊れてしまう物質に生命を与える仕事をすることで、曖昧な次元である３次元や４次元を曖昧ではない次元へと変化させていくことが、宇宙の進化につながることだからではないかと思います。

　なぜなら、次元構造からみると、物質の次元は４次元以下だけであり、それ以上の目に見えない世界たる次元の方が、上方に限りなく広がっているからです。

　更に、その情報に連なっている次元は、平行宇宙となり文字通り数えきれないほどの多次元宇宙を呈しているからなのです。

そもそも５次元ライフとはどんな人生のことを指すのか？

　宇宙の構造はカバラが言うように、トーラス型になっているかもしれませんが、それもまた、たった一つの認識の仕方にしかすぎません。

　悲しいかな、私たちの脳は、果てしない宇宙の構造をすべて認識できるように等できておらず、その次元構造のたった一部の次元を切り取って、やっと理解することができるような構造になっていると思われます。

　そう考えると、「なあんだ、５次元で想像した未来を４次元に持ち込むだけでいいのか…。」「願望を達成するだけでいいのだな。」と、思えて来ませんか？

多分、そうなのです。

そして、すべてのことがインターネット等スマートフォンの発達によって、加速がついている今、「待ち時間」が少なくなっているので、「運」がなくても「奇跡」を起こさなくても、

叶うことが多くなってきているはずです。

　４次元は物質と時間だと、前の方で言いましたが、物質の持つ時間は同じだとしても、加速する時間が４次元の状況に影響を与えることは想像に難いことではありません。

　例えていえば、自動車に乗っている時、加速すると、外側の世界がどんどん速くなっていくように見えると思いますが、自動車の中の世界が、どんどん加速していくと考えると、どうでしょう？止まった自動車の中で、早回しの人間が動いているような現象が起きているということです。

まさに、今、この世界では、内なる宇宙の加速が起きているということなのです。

現実に加速がつくと、思ったものが早く手に入ったり、もっと先のことだと思っていた状況がすぐにできあがったり、シンクロニシティの起きる率が上がったりします。

そのことに気づいて、そういった５次元化を新たな「自然」として捉えられるかどうかによって、厳然とした変化のない現実を延々と生きるか、創造的で変化する現実を延々と生きるかに分かれて行くと思われます。

　これは「価値観の違い」だと説明してしまえば、それまでですが、だとすればその価値観のもとにある「認識」つまり「観念」「思い込み」を解放していくことで、内的な宇宙の加速を促すことができるのではないでしょうか？

　お気づきの通り、５次元ライフとは、内的な世界の加速を現実に生かして外側の世界に変化を起こすという新たな世界の在り方を体感しながら生きることに他なりません。

　これをスピリチュアルな生き方だとすることもできますが、スピリチュアルというタイトルを使わなくても、全く５次元ライフは５次元ライフなのです。

地球の次の現実の在り方が、まさに５次元ライフなのです。

　今後、多くの人が、5次元ライフを送るようになると、この世界はますますソリッドな世界ではなくなっていくことでしょう。

そして、柔軟で適応力の高いフレキシブルでクリエイティブな世界へと移り変わっていくことになるでしょう。

　ただし、その前に5次元化して行く世界の中で起こることに驚いたり、ジャッジしたり、受け入れられなかったりすることも多々あると予想されます。

　なぜなら、ついこの前まで私たちは過去を振り返り、過去を癒すことに集中して来たので、今と過去を繋ぐことはできても、想像力を使って意識的に今と未来を繋ぐことに対して難しさを感じてしまうので、5次元の波打ち際でウロウロしてしまいがちになるからです。

　すでに5次元ライフと私が呼ぶ生き方を始めている人たちは、世界中にいると思います。生き始めてしまうと、なんら特別なことでもなく、むしろ、その方が自然な感じがするものです。

自分を無理やり曲げる必要がなくなるからです。

5次元ライフは可塑的だからです。

さて、では、次にどのようにすれば5次元ライフに移行できるのか？

について次で説明していこうと思います。

Fake it till you make it.

１．既にそうであるようにふるまう。Fake it till you make it.

２．必要な情報をインプットする　ビジョンの解像度が上がります。

３．ビジョンの解像度を上げるために行動すると、シンクロニシティが、どんどん起きはじめる。それまでの自分の基準値が変わる。

４．それらの行動で変化が起こり始めると、今までの自分に違和感を感じ始める。

仕事関連のお客様、同僚、伴侶などと意見が合わなくなるなどの変化が起こる。

５．思い通りにするためのコントロールではなく、物事は思った通りに行くようになっていく。

６．その過程で、そのための試金石となるチャレンジがやってくる。その際に、無難な方を選んで変化のない未来を創造するよりも、思わずニンマリしてしまうような未来につながる方向にコミットすること。

この６は、多くの人がシフトできないところだが、周囲に5次元ライフを既に送っている人がいると、その人たちがナビゲーターとなるので、案外、抵抗なく前進できるようになります。

手堅く、無難なことを選ぶよりも、自分の内側の世界がフツフツと沸き立つような方向を探ること。

それも、5次元ライフを生きている人たちであれば、無難に抑えるようなアドバイスではなく、一度手放したら、何が起こるかを体験談として話してくれるはずです。

そう言った意味でも「5次元ライフナビゲーター』は、今のような移行期には、重要な役割だと言えます。

そして、本書には、さまざまな体験を通して5次元化したナビゲーターたちの経験を収め、まさに今、移行期を迎えている方たちや、移行期前夜で4次元の壁にぶつかっている方たちの、文字通り『ナビゲーション』となる書でありたいと思って作成しました。

お金を増やしてお金持ちになりたいと思っている人は、増えたお金で何かをしたいからお金持ちになりたいと思っているのが普通だ。

お金がなくても、その「したいこと」ができたり、「欲しいもの」が手に入ったりすることだって、この世界ではよくあることだ。

大金を扱うことがしたい人には、実際にお金が必要だろう。

ならば、そのお金を何に扱いたいと思っているかが、5次元的にお金を手にするための必要事項となるはずだ。

ただ、お金が欲しいだけでなく、お金を扱うことで、モノの価値をあげたり、環境を整えたり、それが自分のためだけであっても、他人のためであっても、お金と関わる現実の設定が必須だ。

しかし、何事もお金がなくてはできないと思っているので、どうしてもお金が欲しいとか、大金を持っていなくても、幸せを感じることはできるが、お金がないと、幸せになれないと思っている人もいる。

とりあえず、自分の生活を変えてしまうことが重要な案件だ。

ビジネスクラスに乗るお金があるのなら、乗れば、その瞬間から、そういう生活をしている人になる。

あなたは、ビジネスクラスを体験し、自分の内的な世界と外側の世界を一致させるところから、5次元化は始まる。

つまり、世界は自分のビジョンをミラーリングしていると気づいたと知ることからそれは始まる

『鏡の法則』　しかし、それは心のことではなく、脳のこと。

最初に反応するのは、心臓、次にそれをコントロールするのが脳

ハートとハートは同調同期するけれど、それを受ける脳が決めることは、それぞれが異なる。

情報が少なく、そのために想像力が及ばない場合、思考に制限ができるので、現実が変わらない。

戸惑ったり、迷ったりせず、一番何が欲しいかを考える

「フェイク・イット・ティル・ユー・メイク・イット」のアプローチは、短期間での自信の向上だけではなく、長期的な自己成長にも寄与する。

自信ある行動を続けることで、その行動はやがて内面化され、本物の自信へと変わっていく。

このプロセスを通じて、個人は自己効力感を高め、自分自身とその能力に対する信念を強化することができる。

演技としての大胆不敵さを取り入れることは、自己成長と成功への道を開く戦略と言える。

信念を強化しても駄目

しかし信念を強化するためには、情報や経験が必要。

経験を成功失敗と判断せず、すべて情報収集の一環だととらえること。

知らないことは、起きない。

現実は自分の信じていることを写す鏡だと思えばよい。

現実をみれば、あなたが何をどう思っているかがわかる。

自分がこの世界をどう見ているのか、自分の世界感を知ること

ポジティブとは「ある」ということ。

それは、ある。

信じられない自分に肯定的な言葉をかけ続けるには限界がある。

抽象度の高い言葉でいくら自分に話しかけても、曖昧過ぎて信じられない。